法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催
第６３回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

日本 BBS 連盟会長賞

社会を明るくする運動

山梨県・富士河口湖町立西浜小学校　６年
古谷（ふるや）　優衣（ゆい）

現在の日本では，毎日のように殺人，万引きなどの犯罪，又，いじめ，自殺などが起きています。皆さんも，現場に直面せずともテレビや新聞，インターネットなどを通じて，このような内容のニュースを目にする事があると思います。私は，そのようなニュースを見るたび，「なんでこんなことをしてしまうんだろう。」と，胸が痛みます。又，動機も，ささいな事が多く，カッとなってやった，など，一時的な感情で犯行に及ぶ人も少なくありません。私は，「どうしてそんな理由で犯罪を犯してしまうのだろうか。」と思います。犯罪は，どこをどう取っても良いことではありません。犯罪をして，自分は気が済むかもしれません。ですが，その行動によって，傷付く人の方が多いのでは無いのでしょうか。私は，このような事がこの先の未来，続いてほしくありません。日本中の人々が清い心を持ち，犯罪を犯さない，いじめの無いような明るい社会になってほしいと私は願います。そのために，私が考えたことは，二つあります。

まず一つ目は，「言葉を大切に使う」ということです。現在，私の通っている西浜小学校では，「ふわふわ言葉運動」という取り組みを行っています。ふわふわ言葉とは，言葉にトゲが無い，言われてうれしいと思える言葉です。そして，そのふわふわ言葉を全校児童に，意識して使ってもらう取り組みを，ふわふわ言葉運動といいます。私達人間は，言葉を使って生活しています。その言葉によっては，人を「うれしい」と思わせたり，感動させたりすることができます。又，その言葉によって，一生消えない，見えない傷を心に負わせることもできます。人がけがなどを負ってできた傷は，ある程度日がたてば治るということがほとんどでしょう。ですが言

葉によって心に負った傷は，治るのに何年，何十年，もしかすると，一生，と言っても過言ではないでしょう。心の傷は，簡単に治るものではありません。つまり，言葉というものは使い方をまちがえれば，何よりも相手を傷つける，何よりも凶悪な凶器になってしまうのです。又，本来はそう思っている訳では無くとも，軽く発した言葉が相手の心に突き刺さり心の傷となり，それが自殺につながる事も少なくはありません。なので皆さんも言葉をむやみに使わず，相手がうれしい，と思う言葉を使うようにしましょう。又，あいさつもされると，人はうれしい，と感じます。ですが，自分はあいさつしても返されなかったり，あいさつされないと，残念に思ったり，少し傷ついたりすることもあります。なので，あいさつも，自主的にしていけば回りの人達も気分が良くなるので，たくさんしていきましょう。

そして二つ目は，家族とのコミュニケーションを取り合うことです。最近では，家族を殺したり，暴力をふるったりしている人も居ます。そのような人は，家族とのコミュニケーションがあまり取れなく，家族を私達の思っている「家族」として思っていないのではないか，と思いました。家族とは，生まれた時から一緒にいる，血のつながった限りのある存在なのです。なので，その限りのある大切な存在の家族を殺したり，暴力をふるうなんてことは，絶対にしてはいけないと思います。

このような事だけでは，犯罪やいじめは無くならないかもしれません。ですが，このような事を日本中，いや，世界中の人々が行えば，明るい社会に少しでも近づく事ができるのではないでしょうか。まずは，自分に出来るような事から始め，家族や友達，親せきなどの回りの人に対して思いやりの心を持ち，大切にしていってほしいと思います。そして，世界中の全人々がそのようにしていけば，絶対に犯罪が起こることは無いと思います。そして，みなさんの力で，この世界をすくえることを，願っています。